

今日のテーマは「ウィズコロナ時代のライフスタイル」

新型コロナウイルスは確実に収束に向かって行っています。感染者数が日に日に激減していますね。しかし、ワクチンが世界に行き渡って人類的規模で集団免疫力を付けるには、まだまだ時間が掛かると言われています。学者が言うには、少なくとも2年は掛かるだろうと。

14世紀、ペストがパンデミックで世界中に蔓延し、当時世界人口4億5千万人のうち1億人が亡くなりました。人口の22%が消滅。特にヨーロッパに限定すると、1/3の人口が消滅しました。イギリスとイタリアに限定すると8割が亡くなったのです。国家存亡の危機ですね。

ところで、なぜそんなに大勢の方々が亡くなったのか？ペストの蔓延期間が22年間なんです。最初にペストが発覚したのは1348年、コンスタンチンノーブル。これが収束するのが1370年。22年間も、だらだらとパンデミックが続いた。一旦収束してもぶり返すのです。国の中で収束しても隣の国で蔓延し、その国で収束しても、またその隣の国がパンデミックを起こし…。世界を一周してダラダラとまた戻って来る。

今は21世紀なので、感染症への対応の仕方は既に大変な治験を持っているし、現代医学の力は凄まじいものがあるので、14世紀の時と同じ事にはならないでしょう。実際9月には、オックスフォード大学が開発したワクチンが、数億人分でき上がるのではないかとされています。しかし、全人類的にワクチンが行き渡って集団免疫力を付けるには時間が掛かる。2年程掛かるのではないかと？アフター（After）コロナではなく、次はウィズ（With）コロナの時代が来るのではないかと？

ウィズコロナとは、コロナと共に共生するという事。

コロナの時代がピタッと終わるのではなく、コロナと共に生きる時代。そんな時代が来ると言うのです。その時代は、3密を避けるライフスタイルを続けなければならない。これが2年間続いたらどうなるか？3密を避けるライフスタイルが世界中に定着すると思いますよ。そしたら、それ以前の社会的構造や習慣は一変すると思いますね。

3密を避けても経済効率を落とさないための方法は1つしかない。デジタル化を一気に進める事です。リモート・コミュニケーションを一気に進めて行く。これは決して悪い事ばかりではありません。

ある大学教授は「ウィズコロナ時代、大学に革命が起こるぞ。」殆どの大学は春学期/前期は授業が出来ていません。大学の授業は3密そのものだから。それを避けるために、殆ど全ての大学がオンライン授業を導入しています。オンライン授業には同時刻双方向方式と非同時刻方式があるそうですが、細かい話はどちらでもいいです。これが、大学に大きな革命をもたらすと言うのです。

同時刻でも、サイバーに授業内容を確保して後で見るにしても、どちらにしても録画できるんですね。大学でどんな授業しているか、高い授業料を払っている保護者達は、今までは見る事が出来ませんでした。ところが今や、何百万円も払って子供たちが行っている大学の授業を聞く事も見る事も出来る。

大学の授業はピンキリ。「すごい!」という教授の授業もあれば、「えっ?」というのも無きにしも非ず。

例えば理科系の授業で、黒板の左上から右下に向かって、難解な数式をひたすら黙々・延々書き続けている教員。学生たちはそれをひたすら写す。教員はひと言も何も喋らない。よう考えたら、その数式を書いたコピー用紙を配ったら、それで済むんじゃないですか？ ある授業は、私も大学時代に経験したけど、教科書の棒読み。しかも、その教授が書いた教科書で、これがまた面白くない。ある教授はジャーナリスト上がりで、教育大学にいたんだけど、自分の過去の自慢話ばかり。

全員の教官がそうだと言っているんじゃないですよ。だけど、そんな教授がまかり通って来たのは、教授陣の中に、どこか「大学は教育機関ではなくて研究機関だから、付いて来れる者だけ付いて来たらいい」という考えがあったと思います。と同時に、小学校と違って、大学には授業参観が無い。授業参観は「うちの子、ちゃんとやってるかな？」だけでなく、「今度の先生、どんな先生か？」と先生を見に行くのもあったのではないですか？

だけど、大学の授業は他の教官に見せる訳でなく、保護者が見る訳でもなく、他大学の学生が見る訳でもない。クローズだったので、ある意味、手抜きであっても何ともなかった。しかし、保護者が自由に見るとなると、準備の仕方・用意周到さが全く変わるんじゃないですか？

私が大学に入った時、一般教養で哲学と倫理学のどちらかを取らないと駄目でした。両方取ったんです。取る必要のないのに。哲学や倫理学、いかに生きるのかという事について考えるのが昔から好きだったし、高度な授業を通して、考えを深めたいという純粋な向上心みたいなのがあったんです。が、初め三十数人が、日を追うごとにポロポロと欠けて行き、最後は数人ですよ。気の毒やから私は座っていたけど、正直言って、聖書を読みました。

その授業を受けながら、失礼ですが、予備校時代に受けた倫理社会の授業と比べていた。その予備校の先生、120分の授業で途中の休み5分しかないんです。120分2時間、ほぼほぼノンストップ。テキストは大学受験の問題集だけ。テキスト部分は全部彼の頭に入っていて、アリストテレスから実存主義に至るまで、もの見事にズラーっと。素晴らしい！

私は新聞配達所に住み込みで配達しながら予備校に通ってて、夕刊配り始めるのが3時半。それまでに帰ると、授業を受ける事が出来ない。それで店長に頼み込んで、「どうしてもこの授業を受けたいので、すみませんが、どうか夕刊配達免除してください。」直談判したのを覚えてます。

共産主義がどんなものか、初めてストンと腑に落ちるように説明されたのが、その先生の授業でした。それがあったので、大学の哲学・倫理学、どんなんかと思って行ったら、いや、違ったね。

予備校の教師は必死ですよ。何が何でも合格させなければならないのと同時に、実は生徒たちから採点されるんです。投票があって、落とされたら次の採用は無い。だから、情熱というか、教え方が上手いというか、競争原理が働いていたという事ですね。

「オンライン授業は、大学の授業のクオリティを引っ張り上げるに違いない。大学に革命が起こる」と。悪い事ばかりじゃない。しかし同時に、気を付けなければならない事もあります。

「ウィズコロナ時代、世界が今大変なところに向かっているかもしれない」と警告しているイスラエルの哲学者がいるんです。ユヴァル・ノア・ハラリ（1976-）という新進気鋭で、『サピエンス全史』という分厚い本を書き、全世界でベストセラーになりました。

「現代は人類史上初めて、テクノロジーの力で、世界のあらゆる人間を 24 時間監視体制に置く事が出来る時代だ。例えば 5 年くらい前のソ連では、人口 2 億 4 千万人の国民を秘密警察 KGB が見張っていたけど、24 時間一人ひとりを監視する事なんて出来ない。今は生身のスパイに頼る代わりに、ビッグデータと高度なアルゴリズム。個人データを収集し分析して、アルゴリズムで監視する。そういうテクノロジーの力を使って、24 時間、全ての国民を監視する事が出来る時代になった。」

彼は具体的に例を挙げています。それは中国。中国は果たして本当に武漢ウィルスを抑え込んだのか、疑問があるところです。実は中国では、当局が国民のスマートフォンを嚴重にモニタリングしています。スマートフォンに、今日の体温・心拍数・血圧（それらはスマートフォンで測れます）をデータ入力する事が義務付けられているのです。そして、中国本土に十数億台の顔認識センサーが付いた監視カメラが設置されていて、監視カメラのデータとスマホの健康情報を紐付けするんですね。

それで分かる事は、「急に体温が上がって来た。感染の可能性のある者だ。」この人がどこにいたとしても、一発で割り出す事が出来る。突き止める事が出来る。どのルートを通して、誰に会ったのか、会った全員を特定する事が出来る。国民が町を歩いていて、その人物が前から歩いて来たら、「感染の可能性のある人物が近付いている」と自分のスマートフォンのアラームが鳴るんです。

中国は、このやり方で抑え込んだのではないかとされています。

これとほぼほぼ似ている、等しいシステムを採用しているのが韓国・台湾・シンガポール。この方法なら負の連鎖を断ち切るのに非常に効率がいいけど、「あまり好きじゃない」と息子が言っていました。

世界が今ハイテク技術で監視しようとしているのは、「私がどのサイトを見たのか」ではありません。

そんな事はハイテクノロジーを使わなくても分かる事。

今世界中の政府が必死になって情報を得ようとしているのは、どこのサイトを覗いていたのかという事ではなくて、クリックした指の温度。それと心拍数・血圧。体・体調の情報です。

「そんなの、測る事できるんか？」出来ますよ。

今年、息子からエアポッズ (Air Pods) をプレゼントしてもらいました。アップルのイヤフォン。ノイズキャンセリング機能があって、外部音が遮断されます。めっちゃ便利。講演前にスターバックスで準備する事が多くて、時々周りのワイワイ・ガヤガヤがすごく気になるけど、ノイズキャンセリング機能を使うと一瞬で外部音が消える。そして音楽に集中できるし、音楽を流さないなら電子式耳栓。いいよ！

今度新製品が出ますが、耳に入れるだけで心拍数を測ってくれるそうです。アップルウォッチで体温・心拍数・血圧、全部測れるし、今非接触式の体温計が手に入らないという事で、ある会社が iPhone で非接触式の体温計にするようなアプリを作っていると。

ある国が国民に、このようなセンサーリストを着用するように強要したとします。24 時間、その人の体調が政府によってモニタリングされると、その人が病気になった事を本人が自覚する前に、国家機関が「こいつ、どうも怪しい」と事前に察知し、どのルートを通してどこに移動し、誰と会ったのかを突き止め、それが感染症なら、非常に効率的に感染の連鎖を断ち切る事が出来るんじゃないですか？

そういうシステムが世界中で作動したら、今後どんな恐ろしい感染症・病気が発生したとしても、数日以内に封じ込める事が出来ます。なんと素晴らしいニュースではありませんか。

しかし、ユヴァル・ノア・ハラリさんは「良いものは扱い方を間違うと、とんでもない悪に変身する。」

香港の国家安全法導入で、香港の若者たちがデモをし、昨日も 300 人が警官隊にこん棒で殴られてグチャグチャにされていますね。

例えば、私がスマートフォンでサイトを開いて、その映像をずっと見ている時、心拍数がドドド、血圧がぐっと上がり、体温が少し上昇したら、「これを見ているこの男は何に対して激怒するのか・何を喜ぶのか・何に悲しみを感じるのか」を、体の変化を通して覗き込まれてしまうのではないですか？

体の変化を通して、心の中まで国家権力に覗き込まれてしまう事が可能になるのではありませんか？

もっと言うと、体の事を通して、その人が欲しいと思うものを誘導する事すらも出来るプログラムがあるそうです。

ウィズコロナ時代は、今までにはない IT デジタル化が、一般庶民にまで深く根差して行く。

それが短期間に定着して行くのですが、これは、**黙示録**時代に非常に近付いているという事です。

聖書預言では、人類は**患難時代**という 7 年間の恐るべき時代に入り、7 年間の後半の 3 年半には、たった 1 人の人物/反キリストが、自分の数字 666 で全人類をコントロールする事が描かれています。ウィズコロナ時代はプレ患難時代に繋がるのです。

イスラエルの哲学者ハラリさんは患難時代という言葉は使っていないけど、「これは、恐るべき時代に近付きつつあるのかもしれない」と警告を与えている。私はそれに同意したいと思います。

そんな時代・聖書が言う終末時代に、正気を保ってシャンとして生きて行くにはどうしたらいいのか？それを、この福音集会でお分かちしたいのです。

ルカ 19:10 人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。

これはイエス・キリストの言葉です。**人の子**という言葉が最初に出て来ますね。これが主語です。

人の子は聖書に出て来る専門用語で、単に人間を指す場合もありますが、イエス・キリストが使う時はメシアの称号です。**人の子**とは全世界の救世主の別名。救い主の称号。救い主とはメシアの事です。

イエスが「**人の子**」と自分を名乗っているという事は、「自分自身が人類の救い主なのだ」という事を自覚しながら語っておられる。そして、何のために救い主が来たのかという説明をしています。

誰のために・誰をどのように・どうするために**人の子**/メシアが来たのか。

人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。

ここから 3 つのポイントで、メッセージをさせていただきたいと思います。

1) **人の子 (メシア) は失われた人のために来た**

失われた人とは誰の事でしょう？ 聖書は「全ての人は**失われた者**だ」と言うんですね。

私たちは何かを失いましたか？ 手足もある。財産もある。別に失われてない。

いや、決定的なものを失っている。それは、あなたを造った創造主との関係です。

あなたは偶然に湧いて来たのではなく、全知全能の創造主によって造られました。

あなたには作者・魂の親がいる。その魂の親とあなたとの間に断絶があつて、あなたの対神関係は失われていると言うのです。

「神なんかいない」という人生観で世界を見・人生を眺め・生きている人は皆、神の目には**失われた人**。この世に存在していてもコミュニケーションを取る事が出来ないで、神の目には**失われた人**なのです。神無しに人生を眺める人です。

前回、「最近、人生相談のお手紙をよく頂くようになりました」というお話をしました。今でも、随分たくさんのお手紙をほぼ毎日数通づつ頂いていて、私は1つのお便りを少なくとも3回読みます。そして、特に何か聞きたいという方には必ずお返事しています。

しかし中には、聞きたいんじゃなくて「ただ言いたい」というお手紙もあります。「ただ言いたい」というお手紙については…、言ってもらいます。私が特に何か言う事もないかな。言いたいという事に対して私が言うというのは、却って失礼のような気もするので。

「送ったのに、返事けえへんやないか!」これは「仰る事を承りました」という事で、どうぞご了解下さい。

先日、幼児虐待を受けて育った方のお手紙が来て、本当に胸が痛みました。

教会に行ったら、クリスチャンたちから「神様の愛は親の愛と同じでね、何か良い事をしたからではなく、何にもしなくても、神様の愛は抱きしめてくださる愛なんだよ。だって、親ってそうでしょ!」と言われるのが一番辛い。自分は親に抱きしめられた記憶がない。それどころか、酷い目に遭って来た。

その酷い目というのを読んで行くと、これは同情に堪えないです。胸が痛みます。ほんとに世の中には父の名に値しない父・母の名に値しない母・毒みたいな親っていますよ。毒親。

この方の事を読みながら気の毒でならなかったのですが、ただちょっとだけ、この方のエネルギーの使い方については「こうしたらいいのになあ」という違和感があったのでした。

誰かのせいで酷い目に遭ったなら、その不幸を更に深めて追及するためにエネルギーを使う必要はないと思いませんか? 気力も体力も、自分が幸せになるために使ったらいいんです。

今まで散々惨めにさせられていて、今なお一層惨めになるために、醜い嫌な過去に立ち戻って、1回しかない人生を浪費するというのは無駄遣いです。

気力も体力も能力も、自分を酷い目に遭わせた人を恨むために使う。それを思い返すために使う。

それは、余りにも勿体なすぎる事です。

私の周りには、この集会に来られてイエス・キリストに出会った大勢の方々がおられます。

「どうやってキリストを信じるに至ったのか」という個人のヒストリーを聞くのは本当に楽しみです。クリスチャンはこれを「証し(あかし)」と言います。証言。作り話ではなく、神が自分の人生にしてくださった事の証言。いつも、どの方の証しを聞いても、本当に心揺さぶられます。

幸せそうにしている方々は、人生に幸せしか起こらなかったのが幸せそうにしているのではないんです。それどころか「よう、ひねくれませんでしたね。」「よう、自殺しませんでしたね。」「よう、飛び降りませんでしたね」というような。聞いているこっちが「腹立つー!」みたいな。

幸せそうにしている人は、人生に幸せしか起こった人ではないし、幸せしか起こらない人生ってあり得ません。生きてたら、不幸な事・嫌な事・つまらん事・苦しい事、呼んでないのに、なんぼでも来るんじゃないやありませんか?

しかし、幸せそうにしている人は、過去の人生を眺めた時、不思議と「良かったなあ」という思い出を大切に、それを覚えて、そこにフォーカスしている人のように思うんです。

逆に「不幸だ。不幸な人生だ」と言う方は、必ずしも不幸しか経験しなかったのではなく、極端な例かもしれないけど、ものすごくたくさんの幸せに囲まれていながら、たった1つの不幸のために、自分を世界一不幸な人間のように自己憐憫している事も、またあり得ると思うのです。

不幸な人は、人生で不幸しか経験していない人ではなく、不幸な事を特に記憶に留めて思い返している人かも知れない。

しかし、どんなに不幸に見えても、不幸しかなかったという事はないんですね。
辛い時に、ちょっと良かった事・ちょっと嬉しかった事・すごくホッとした事・思いがけないタイミングでもらった親切で、「よーし!」ともう一度立ち上がる事が出来た事。今自分が生きているのは、不幸しかなかったんじゃないかと、所々で、息を吹き返せるような出会いがあったからではないか。
所々で「もう一度やってみようか」と奮い立たせてくれる人・本・事件と遭遇したからではないか。

もしそれが無かったら、生きてないと思うんです。私が今生きているのは、神が生かしてくださったから。辛かった人生の中で、やっぱり助け・慰めがあった。励ましもあった。応援してくれる人もあった。そういう事は、全ての人の人生に必ずあるのです。忘れていただけです。

あなたの人生にもあった良かった事を送り込んでくださった良き黒幕は神です。
創造主なる方がおられる。あなたは神の作品です。神はあなたの作者で、あなたに良いものを惜しみなく与えてくださる方。あなたの人生の全場面で、あなたに寄り添っておられる方です。

そういう存在がおられるという人生観で生きるのと、「私がのたうち回ろうが、のたれ死のうが、世間は何とも思わないし、誰も哀れに思わないだろう」と生きる人生とは、何か同じ衝撃を受けた時の耐久力がまるで違って来るんじゃないでしょうか。

神はあなたを愛しておられる。神様は、あなたをどんなに愛しているのか具体的に示すために、**人の子**を送りました。神があなたを愛している動かぬ証拠は、神の御子を**人の子**にして、この世界に遣わしたという歴史的事実の中にあるのです。

2) 人の子(メシア)は失われた人を探すために来た

この前読んでいたサラセン/サラリーマン川柳で、「万歩計 半分以上は 捜し物」というのがありました。私も家内も一日の中で捜す時間の何と多い事か。私個人に限って言うなら、生きている時間の1/10は物を捜しています。「さっき、ここに置いてたのに!」とか言うて。置いたらそこにあるはずや。あらへんねん。それ。なぜ捜すのか。なかったら不便やから。

鉄道会社では取りに来ない落し物・忘れ物を毎年処分しています。JR 桃谷の駅前に、JR の落し物・忘れ物を安く払い下げる店があるんですよ。色んな物が払い下げられていて、昔、うさぎの燻製を見た事があるんです。あんな物、何で忘れんねんやろ。どないしたら忘れんねんと。

払い下げるのは、置き場所がなくて困るから。毎日毎日、落し物・忘れ物がセンターに送り込まれて来るけど、ゴミで処分したら勿体ないので、そのように処分している。そんなに置き場所がないのは、忘れ物をする人が多いからではなく、取りに行かないからではないですか? 忘れた人が全員取りに行ったら、センターはいつも空のはずです。失ったのに捜しに行かない人が多いから、いつの間にかたまって来る。

失ったのになぜ捜しに行かない? なぜ諦めてしまう? なぜ取りに行かない?

そこに置かれている多くの物は、なんぼでも替えが効く物だから。傘や手袋、無かったら困るけど、お金出したらいくらでも取り替え効く物だから、わざわざ時間つくって、あんな辺ぴな所に行くよりか「ええわ。なかった事にしよう」と諦める。捜さない。惜しいと思っていないから捜しに行かない。

しかし神は、ご自分のひとり子を人の子の姿にしてでも、失われた者を捜したいと願われました。それは、神はあなたをどこにでもいる者ではなく、どんな事をしても取り替えが効かない尊い存在としてご覧になっているという事なのです。

先日『からのゆりかご』という本を読みました。多分、しばらく、もう読みません。いい本だけど、ちょっと重い。イギリスのノッティンガムでソーシャルワーカーをしていたマーガレット・ハンフリーズという女性が調査した内容を書籍にしたノンフィクション。

ある時から、彼女の所に中年の男性・女性の相談者が来るのですが、その相談内容が全部親捜し。彼らは不思議な事に、イギリス生まれにも拘らず出生届を持っていない。戸籍がない。自分を証明する物・少年時代の写真も1枚もない。親の写真も。そんな不思議な男性・女性が親を捜している。

この人たちは、ただ「幼い頃貧しかったので施設に預けられた」という事を覚えているんです。ある時、「家族は全員死んだ」と施設長に言われ、大きな船に乗せられて、知らない所に連れて行かれた。そして、子供ばかりが暮らす所に押し込められ、朝から晩まで強制労働させられ、しばしばレイプされた。

その話が1人や2人ではない。なぜこんなに多いのかというくらい、似通った話が舞い込むようになりました。その話に1つ共通点があって、彼らは皆オーストラリアに行くと。彼女は「これは何かある」と立ち上がり、この問題に取り組んで行ったのですが、その結果、衝撃的な事実が分かったのです。

イギリスは1970年代まで、貧困家庭から施設に預けられた子供たちを、子供白人移民としてオーストラリアに強制的に送り込んでいたのです。親の許可も取らず、子供たちを騙し、オーストラリアだけでなくカナダにもニュージーランドにもローデシアにも。その数全部で13万人以上。

オーストラリアは国土の割に白人人口が比率として少ない。出生率を考えると、このままでは白人が少数派になってしまう。そこで、イギリス系白人を子供の時に送り込んで、人口比率で白人が優位になるようにする。しかも労働力として、ただ働きさせる事が出来る。それで「親は死んだ」と言われて送られるけど、里子に出されるのではない。カトリックの修道院の施設でした。

ある男の子は9歳半でレイプされて、12カ月で20回、男から強姦されている。別の少年は18日連続レイプされています。私が一番「あっ」と思ったのは、小さな男の子が「歌を歌ってくれたら、オモチャをあげるから」と言われて「オモチャ、欲しい!」その誘い文句に騙されて連れ出され、集団でレイプされる。それが終わった時、うわーっと泣いているのですが、その理由がレイプじゃない。オモチャをもらえなかった事で泣いているんです。何されたか、よく分かってない。

彼らは孤児院に入れられて、朝から晩まで働かされて、給料はピンハネ。3歳に満たない幼児も連れて行かれた。オムツを交換してもらえない。おしっこの臭いがしみ込んでいるマットにいつも寝転がされて。なぜ、自分がここにいるのかよく分からない。

親も子供を捜しているのですが、高齢で亡くなって行く。特に、子供の方が必死になって親を捜すんです。必死に捜す理由は、ルーツが分からないと自分が分からなくなるからです。親を捜すという事は自分捜しなんですよ。

物心着いたら、生まれたのではない全然知らん国にいて、よく分からない理由でいつも打ちのめされ、殴られ、強制労働させられて。

なぜこの国にいるのか？なぜ、こんな苦しい目に遭っているのか？そもそも、なぜ生まれて来たのか？母はなぜ施設に送ったのか？母はなぜオーストラリアに送るのを許したのか？母が知らないとするなら、どんな経緯で、こんな目に遭っているのか？

親の事を知りたいというだけでなく、こんにちに至るまでの自分の人生の経緯・ルーツが分からないと、自分が一体何なのかが分からない。私は一体誰なのか。それを知るためには、私を愛していたであろう親に会って、出生の由来や秘密を聞きたい。それはもう、人間の根源的な欲求じゃないですか。親も捜している。でも、子供もまた、自分の人生の理由を捜しているのです。それを見つけないと、生きた心地がしないのです。

ところで、あなたはこんな事を考えた事はありませんか？

「なんで生まれて来たのかな？何のために生まれて来たのか？なぜ、今生きているのか？」

生きてたら辛い事・苦しい事・残念な事もありますね。

こんなに残念な思いをしてでも、それでも生きて行かなければならない人生って、一体何なんだろう？

「なぜ生まれて来たのか」という理由さえ分かれば、「いかに生きてらいいのか」という事が自ずと見えて来る。「なぜ生まれて来たのか」という第一原因が分からないと、世の中を渡って行くハウツー (How to) をなんぼ知っても、魂の根源から力が湧いて来ないように思いますが、いかがでしょう。

人の子は、神のもとから離れて失われた者を捜すために来たのです。それは、失われた者もまた、何のために自分は生まれて来たのかという人生の目的や、生まれて来た理由を捜しているに違いないから。そして、私たちを“失われた状態”から“取り戻された状態”にするために、人の子/メシアはこの世に来てくださったのです。

ところで、親は子供を捜そうにも手立てがない。子供の方は出生届も持ってない。子供が親について持っているのは、おぼろげな記憶だけ。皆さん、3歳の時の事を何か覚えていますか？

3歳未満で親と別れたら、親の名前を覚えていない子供がいても不思議ではない。

親の声やお母さんが歌ってくれた子守唄のメロディーとか、極々かすかな記憶を辿りながら…。

でも個人では限界がある。そこで、第三者の手を借りる必要がありました。

親は捜している。子供も捜している。この捜している者同士を結びつけるには、ソーシャルワーカーだったマーガレット・ハンフリーズさんが必要だったのです。

実は、彼女がこれを本格的に捜し出した時から、ものすごい圧力に遭い始めます。

「終わった事を、今更国家の恥部を暴いてどうするんだ！」とありとあらゆる妨害。更には脅迫。

彼女の家族はボロボロになって行くんですよ。それでも、義憤に駆られた彼女は諦めずに追及します。

そして遂に、2009年12月、オーストラリアの首相が事実を認めました。

その後2010年2月にイギリスの首相が事実を認め、2つの国の行政のトップが謝罪したのです。

これは『オレンジと太陽』という映画になりました。

今ではNetflixで見られるかもしれませんが、その抜粋で構成されています。

バラバラになった2つを結びつけるには仲介者が必要でした。これはちょうど、聖い聖い創造主なる神

様と罪人（つみびと）となった人間を結びつけるために、遮蔽物となった罪を取り除くための仲介者を、私たちが必要としているのと似ていると思ったのです。

イエス・キリストは、神と人との間の「罪」というそびえ立つ壁を完全に取り除くために、2000年前に十字架にかかって死んでくださいました。全く罪のない方が罪人の罪を背負って、身代わりに刑罰を受け、飲み干し、そして罪を完全に処分し、3日目によみがえってくださった。

3日目によみがえる事で、キリストのこの犠牲が受け入れられたという事を証ししてくださったのです。

3) 人の子は、来た

人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。

救いとは、十字架にかかって死んでくださり、よみがえる事だと言いました。

救うために（十字架にかかるために）来たのです。この「来たのです」に注目したいと思います。

来させられたんじゃないんですよ。行かせられたんじゃないんです。

「気が進まない。行きたくなかったけど、人の子は、失われた者を捜して救うために無理やり行かせられた」ではないんです。来たのです。この言葉の中に「キリストご自身の自発的な意思で、この世界に来られた」という事が表明されているように思います。

健全な人間関係とはどんな関係だと思えますか？ 自分も喜び、相手も喜び関係。自分も満たされ、相手も満たされる関係。自分が喜ぶと相手も喜び、相手が喜んでいられるのを見ると自分も喜ぶという関係。

お互いに満たされて行くという関係。これが健全な関係。

そんな関係なら長続きするし、その関係をもっと深いものにしたいと思うに違いありません。

不健全・不健康な関係とは、一方だけが喜び、もう一方は苦痛を耐えるという関係。一方は悲しんでいるが、もう一方は喜んでいられる関係。一方が喜ぶために、もう一方は迷惑を掛けられて、苦々しい思いに耐えながら、歯を食いしばっている関係。それは、一方がどんなに幸せであっても、関係としては不健全です。どちらか一方が我慢する関係は、良い関係とは言えないと私は考えます。

キリストが我慢して十字架にかかり、「わたしばかり辛い目して、引き受けたくもない苦痛を引き受け、その代わり人間は救われて。わたしはしんどくて苦しくて、それを我慢している。だけど、人間は幸せになれよ。」そうじゃない。十字架そのものは確かに苦痛でしたが、これはキリストがご自分の意志で、望んでかかれた事だったのです。

嫌なのにそれを我慢し、その代わりに人間が救われるというのではなく、人が罪から救われ・永遠のいのちを持ち・天国の国籍を与えられ・人生の意味を知り・神と共に歩く素晴らしい人生を歩む方法はこれしかないと考えた時、悟った時、この方は自発的に、この道を選び取られました。

キリストは十字架にかけられたのではなく、自らかかりに行かれたのです。

あなたを愛し、救いたいから。救うために、自ら十字架にかかるために、来たのです。

ここに愛があります。世の中に「愛」という言葉は溢れているけど、本物の愛はキリストの中にあります。私たちは、誰もが本物の愛を求めているのではないのでしょうか。

キリストの中に、あなたがずっと捜し求めて来たものが全部揃っています。

あなたが求めている答えはイエス・キリストの中にあるのです。

